

会報

平成16年1月15日

てんりゅう

特集

協会創立50周年記念



はましよ

第5回 浜背負い祭り風景 (祭り説明文は7ページ)

会報てんりゅう 第78号

(社)天竜建設業協会 天竜市二俣町鹿島491-5 ☎(0539)26-1562
編集・発行 広報委員会 題字 秋山鏡介 FAX(0539)25-6468
電子メールアドレス tenryu@aquanet.ne.jp
ホームページ <http://www.tenkenkyo.net/>

賀 正



迎春

全員の皆様へ益々の発展を

お祈り申し上げます

平成十六年 元旦

北遠農林事務所長

山崎 巖



賀 正

昨年は創立五十周年を迎え、
今年も新しい年を迎え、
希望を胸に、環境の中、
熱意と情熱を注ぎ、
挑戦を続けてまいります。

一月九日

社 天竜建設業協会

会長 秋山 龍一



賀 正

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
公共事業に付する厳しい状況が続いていますが、
北遠地域の発展のため、ともに努めます。よう
協会員の皆様へ益々の御健勝をお祈り申し上げます。

平成十六年 元旦

天竜土木事務所長

藤原 克彦

さるどし

2004年(申年)生れの新春挨拶(順不同)

(株)アキヤマ
鈴木康之

新年明けましておめでとうございます。建設投資の減少で受注量が減り、非常に厳しい値段で工事を施工している。また顧客の要求は多様で、高品質の提供と環境配慮や社会貢献度まで評価されている。

今年、建設業に携わり25年、人生4回目の年男を迎えました。これまでの経験や諸先輩の教えを活かし、社会貢献と高い技術力の向上に努め、常に前向きな姿勢と創意工夫に取り組んでいきたい。

田京組
田京 孝雄

平成十六年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

ここ数年来の景気低迷・公共工事の削減等建設業界も大変きびしい時代に突入しております。この時代を乗り切るためにも今後以上に、知恵をしぼり、努力を重ねなければならないと思っております。

最後になりましたが、会員皆様方の益々の御健勝と御繁栄を祈念申し上げまして新春の挨拶とさせていただきます。

最後にになりましたが、会員皆様方の益々の御健勝と御繁栄を祈念申し上げまして新春の挨拶とさせていただきます。

天龍建設工業(株)
沼野清寿

新春のお慶びを申し上げます。世界のグローバル化の渦中で、混迷を増す日本の未来は、一体どうなるのでしょうか。建設業は、北遠地域は、そして私達はどんな明日を迎えるのでしょうか。果てしなく続く不安要素に怯える日々が続くのは勘弁してもらいたいものです。未来は明るい信じ毎日を真剣に生きること、困難には真正面から立ち向かうことで乗り越えて行きましょう。

次回の年男ではもっと明るいお話ができる事を祈ります。

(株)いずよ建設
坂下 弘

あけましておめでとうございます。

満七十一歳を迎えました。健康で過して居る事に感謝し、この間は協会五十周年記念式典で栄えある表彰を頂き感謝致しています。誠に有難うございました。

益々厳しくなる環境にもめげず頑張るつもりでおります。皆様のご指導をお願い致します。

鎌倉組
鎌倉一夫

ここ数年私たち建設業も、大変厳しい時代を迎え、経営者・従業員とも大変なご苦労をなさっていると思います。

新しい年を迎えるにあたり、この厳しい時代を乗り越えて、更なる飛躍を目指してよりいっそうの向上心を持って頑張っていきたいと思っております。

(株)西村組
中山 正光

二〇〇四年の輝かしき幕明けを皆様と供にお慶びを申し上げます。

昨年は天竜建設業協会五十周年記念と慶ばしき中、勤続三十年を頂く事が出来ました。感無量の思いでした。又現場での変わり行く

新工法への挑戦と工期内での作業、年を重ね行く私達には大変な毎日ではありますが今年も仕事に追われ忙しい日々を健康で送れます事が出来ます様願っております。

特集

天竜建設業協会創立50周年

北遠の発展と共に半世紀



あいさつをする秋山会長

○式典・祝賀会開催
平成十五年十一月七日、浜松市の「グランドホテル浜松」二階の鳳西の間において記念式典を挙行了しました。当日は曇りもなく、寒くも無い絶好の秋日和に恵まれた一日でした。式典に

念品の贈呈、会員事業所に二〇年以上勤務の従業員二十八名に対する表彰状と記念品の贈呈、協会創立以来の二十一会員事業所に対する感謝状の贈呈が秋山会長より行われました。



祝辞を述べる天竜市長

OB所長経済界、議員、行政機関、県下の関係団体、農林、土木の

先立ち十時半には役員・式典実行委員が集まり準備に追われました。当日は総勢一三〇名余の方々が県下各地よりお祝いに駆け付けていただき盛大に式典と祝賀会を挙行することが出来ました。司会者の進行により、午後二時から西村副会長の開会の言葉に続き、先人物故者への黙祷、秋山会長の挨拶、関係六市町村に対する「ふれあい基金」の贈呈、長年役員を歴任された七名の方々に對する感謝状と記

県土木部技監、市町村長を代表して中谷天竜市長、関係団体を代表して生子静岡県建設業協会長の二名からお祝いと贈呈の言葉を頂きました。国会議員、静岡県知事、その他の方々から移しての記念祝賀会は休憩

の祝電十通の披露があり、最後に今場副会長のお礼の言葉により式典を滞りなく閉会しました。また、鳳西の間に会場を



ふれあい基金贈呈



栄えある永年役員への感謝状贈呈



一堂に会した来賓

会員等々が五〇年間のタイムカプセルに入り込んで昔話、懐古談を語りあげました。途中歌手の「愛の花」さんの美貌と美声が座を盛り上げてくれ時間の経つのも忘れてしまうほどの。あつという間の二時間が過ぎました。終盤には土木、農林のOB所長さん達が在職当時の思い出話を披露して頂き、一層の盛り上がりとなりました。締めは、藤原天竜土木事務所所長の万歳三唱により「お開き」となり、再開した方々とは四時間たらずでのお名残り惜しいお別れとなりました。



来賓受付

◎五〇周年記念の準備

記念式典、祝賀会は二時間ほどに凝縮されたイベントでありましたがこの日を迎えるまでの準備状況について事務局を覗いて見ました。

記念式典は、今場実行委員長を中心に準備を進めました。五〇年の節目の事業は、記念式典、祝賀会開催と記念誌発行の二本柱に大別出来ると思います。(詳しい準備会の状況については記念誌の二四ページをご覧ください。)

腹が減っては軍はできぬ。金

が無くては仕事ができぬ。というわけで積み立ての準備を始め、その十年度予算に百万円を計上してからでした。準備会もこれに合わせて十年の秋に初回の会合を持ちました。

金さえ用意しておけば何とかなるという事ですが、すこしずつ助走を始めないといきなりエンジン全開というわけにも行かないだろうと、最近の記念式典開催協会の資料集めからスタートしました。幸い、昨

下の協会の中では当協会が五〇周年記念事業の最後の開催となったため、それぞれの協会のご協力により貴重な資料と助言を頂くことが出来ました。

物事は、何事もなく終わって当たり前。招待者の選定、招待状発送、参列者名簿の作成、式次第の印刷、表彰状感謝状の印刷、揮毫、席席表作成、名札作成、記念品購入などに細心の注意を払いました。

ユーワかふじ団体「開業年のため、十月を越け十一月の「大安吉日」に決定しました。」ところが、降って沸いたように開催日が近づくに従い衆議院の解散がちらちら話題となり慌てました。準備を進めてきた都合上当初の予定どおり開催することになりました。

◎記念誌の刊行

記念誌の編集作業は、夏目委員長を中心に、式典開催準備と並行しながら印刷業者の選定、印刷部数の決定、内容の決定、発注、校正等について編集委員が意見を出し合いながら進めました。

五〇年の歴史を詰め込むことにより、二〇年、三〇年後も皆さんに親しみを持って見て頂くどのページを開いても身近な感覚で見えていただける。予算は少し頭張って写真はおールカラーで美しく、などを念頭に進めました。記念誌の編集で最も苦労した点は何と言っても内容の構成でした。他協会の記念誌を参考にしながら二番煎じにならないよう、幾度かの編集会議を重ね、印刷業者に原稿を渡してからも内容変更となったり、寄稿者に原稿依頼の趣旨が十分伝わらなかつたため再度の提出をお願いしたり、寄稿者・印刷業者に随分とご迷惑をお掛けしました。この結果、誤字・脱字もほとんどなく出来上がりました。記念誌に記念事業の内容を掲載

した協会もありますが、年末、年度末の忙しくなる時期を避けて編集作業を行った結果、記念事業の状況を掲載することはできませんでしたが、式典の開催に併せてお配りすることが出来ました。

よく出来ているじゃないか。綺麗な出来上がりだよ。と言う言葉が届けられました。何にも代えがたいぬぐりであると思われ一同感ずいております。



在職した歴代所長は農林が二十三名、土木が二十八名となっております。小さい協会ですが、この数字だけを見てもいかに多くの方々に支えられて五〇年の節目を迎えたかが分かりますと思えます。

○最後に
激動の時代に入りましたが五〇周年の次は六〇周年、七〇周年となりますので、会員一同一丸となり、地に足をしっかりとつけて元気を出して毎日毎日頑張ります。

○数学から見た五〇年
この五〇年間の協会在籍会員数は一〇一社、現在は五十六社で構成されており、長年、月々の間に四十五社が入・退会したことになります。

理事・監事の役員に携わった方は六十九名、うち会長は三名、副会長は十五名となっております。事務局職員は十九名、行政の農林事務所長、土木事務所長に



和やかな懇談の来賓

リレー「安全バト」⑧

「見慣れた風景」

安全指導員 大石 富雄

ひよんなことから建災防の安全バトロールに携わるようになって一年になりますが、いくつかのことを考えさせられました。安全管理は危険要因を見つけ出すことから始まりますが、何を危険とするかは多少の個人差があつて事故予防対策を個々にまかせてしまうと欠陥が生じてしまうということがあります。労働安全衛生法や施行規則が内容煩雑で退屈なものになる。(はしごをかけるときその先端は床

から60センチ以上つきださなくてはならない等々)のは、あくまでも第三者が安全側にたつてマニュアル化しなくてはならないからです。もうひとつ、あるバトロールのとき基準監督署の職員が転落危険箇所を指摘したのですが、同じ場所を見ていながら私はまったく気づきませんでした。自分が手を下して作り出した危険箇所や要因というのは気づきやすいのですが、現場に乗り込んで

当初からあった開口部などは当事者ほど見つけにくいのかも知れません。見つけたとしてもそのときに対処しないと、日が経つにつれてあまり危険と感じなくなる。要するに「見慣れた風景」になってしまうのだと思えます。そしてここにこそ第三者による安全バトロールの重要性があるのだと考えます。こんな感じで毎月皆さんの現場を廻っていますので、アラ探しに米たかななどと思わず御協力をお願いします。



最近のキーワード 建災防の「建設従事者教育」

建設業労働災害防止協会(建災防)がヒューマンエラーを防止するために作成した安全衛生教育カリキュラム。これまで、安全教育は元請け・下請け事業者の責任で実施されてきました。が、さらに徹底するには、現場で働く作業従事者に直接教育する事が大切、との事から、国土交通省が今年度事故防止重点対策の中で、常時20人以上の直轄現場で、専門の外部講師の安全教育を行うよう、関係機関に求めた。

安全教育は、建災防が現場に講師を派遣して、学科1時間、実技2時間の一日6時間の講義を行う。労働安全衛生法をはじめとする関係法令、安全衛生法、安全衛生法の実施方法などテキストビデオ等を使った教育。実技では、土木建築等工種に応じて、建設機械による危険防止、転落防止など実際の機械を使い学ぶ。県内でも、国土交通省指導の下、安全教育研修がスタートしている。



二〇〇三年 国内 重大ニュース (独断編)

・政府はイラク復興支援として十五億ドルを無償で提出し、自衛隊を人道支援として派遣することを決定した。

・衆議院選挙で自民党が後退し、民主党が躍進し、二大政党化が進んだ。

・道路行政のドン、道路公団総裁藤井治芳氏解任。

・火星が六万年前に大接近、地球との距離五五七五万八千キロ、にわか天文ファンが急増。

・高速バスの飲酒運転、逆走、新幹線の脱線、運転等信じられない様な不祥事相次ぐ。

・冷夏の影響で農作物が不作、米、果物など農作物の多量減産。

・被害総額五五〇〇万円以上。

・宮城県北部で震度6の地震相次ぎ、負傷者四百人以上(7/26)。

・北海道でも震度6弱の地震、負傷者五七〇人以上(9/26)。

・「バナウエーブ研究所」と名乗る謎の白装束集団が車で逃走。

・天竜建設業協会創立五〇周年記念式典・祝賀会がグラントホテル浜松で盛大かつしめやかに開催された。関係者の皆様に苦勞さまでした。

(M・S)

事務局だより

●協会の動き(実施と予定)

十月

・二日 合同パトロール実施

・七日 五〇周年記念事業打ち合わせ

・九日 役員会開催

・十日 西部三土木事務所と西部三協会長打ち合わせ

・二二日 グラントホテルとの打ち合わせ(グラントホテルにて)

・三十日 企画青年委員会講習会・市町村合併について

十一月

・四日 五〇周年記念事業司会者と打ち合わせ

・七日 五〇周年記念式典開催(グラントホテル浜松)

・十二日 適正取引講習会開催(可美運動公園)

・十七日 広報委員会開催・七八号編集会議

・二十日 合同パトロール実施

十二月

・四日 合同パトロール実施

・十九日 建設業家の指導検査

一月

・六日 天竜市賀詞交歓会午後四時三〇分(テレビ

ア二階)

・九日 午後一時二〇分、土木・農林事務所に役員で新年挨拶

・午後三時臨時総会開催

・新年願合せ会

・十三日 建設業賀詞交歓会(フケ東海、十一時)

・十六日 自主パトロール実施

二月

・五日 合同パトロール

三月

・四日 自主パトロール

・十七日 県技士会総会

●全建協会長等表彰へ推薦して下さい。

・五〇歳以上で役員歴二〇年以上

・建設業二〇年以上営業で地方協会長受賞者

・五〇歳以上で勤続二〇年または二〇年以上の従業員で地方協会長受賞者

・七五歳以上の者で功績顕著

・五〇歳以上で役員一〇年以上

・五〇歳以上の会員で経営者として十五年以上

・五〇歳以上の従業員で二〇年以上

・建設業十五年以上で協会員十五年以上

・五〇歳以上で勤続二〇年以上の従業員

・五〇歳以上の従業員で功績顕著

●全中建設表彰

・五〇歳以上で建設業に十五年以上従事し、役員五年以上在職

・建設業表彰

・五〇歳以上で建設業歴二〇年以上

●役員歴二〇年以上

(断続は可)

●表彰規定に関する照会ならびに推薦調書の提出は天竜建設協会事務局に

推薦の締切りは一月二十三日までに天竜建設協会に提出して下さい。

表紙説明

「浜背負い祭り」



塩の道は、陸上・海上を含めて全国には幾つか存在したようですがが相良から長野県塩尻市に至る約三五〇キロのコースが有名であります。人間の生活にとって不可欠な「塩」なるがゆえに塩を運ぶことにより、諸物資と文化、信仰、風俗を運んだといわれて



おります。

では何時の時代から運ぶことが始まったかについては農耕が始まったところからとか農文のころからとかの諸説があるようですので興味のある方は研究してみてください。

塩の道が、我々に身近となったのは平成七年に関係の十二市、三十六町村が一堂に会し「塩の道会議」を掛川市で開催し、スタートさせてからでした。

佐久間町では、昨年十一月二十九日に第五回の「浜背負い祭り」が開催されました。当日は、午前十時から午後四時までの間、西渡商店街(佐久間町大井)をメイン会場として「浜背負い時代行列」「五半餅、串いも、五目飯、そばなどの「地場産品」の販売、ちんどん屋、似顔絵描き、乗馬体験などの「催し物」塩に見立てた砂袋を背負子に結び、一チーム三名によるリレー運び競争の「浜背負い健脚競争」(歌謡ショウ)「餅投げ」などが開催され、近隣市町村等、大勢の観光客や地元の人達でにぎわいました。このお祭りは一年おきに開催されており、次の開催予定を、期待下さい。

天竜市森林組合
太田あゆみさん

(26才)

浜北市在住



天竜市森林組合に入社して、4年目になります。素敵な上司とこのみなさん(独身多数)に囲まれて毎日、楽しく働いております。イヨイヨ、秋以降は、木の伐採時期になり、忙しい毎日になります。休日には友達とワイワイやっています。趣味は旅行と、ドライブです。自然が大好きな子な私達とお友達になつて下さい。



友人と京都に旅行中前列左から3人目

平成15年10月31日、待望のベビー誕生が産まれました。我家は一層にぎやかさを増し、みんなで泣いたり笑ったり喜んでいたりしながら毎日があつたという間に過ぎていきます。笑顔いっぱい幸せいっぱいファミリーを紹介いたします。山菜取りが趣味でいつもやさしい父と一、愛情込めて花を育てる母、家のまわりはいつ

My Family

渡辺組

中沢 久



もきれいな花が咲いています。山や川に探検に行くのが大好き。遊兵が大きな

つたら一緒に歩くことを夢見ていた。夫の久保君、最後に只今子育て奮闘中の明希子31才。家族の温かい協力を得ながら、一日一日を過ごしています。赤ちゃんといふ存在は、まわりにいる人間をなごやかな気持ちにしてくれます。新しい家族ができたことにより、更に家族の絆が強くなったような気がします。今後、明るく笑い声の絶えぬ家庭でありたいと思います。産まれてきてくれてありがとうという気持ちを含めて、遊兵の健やかな成長をみんなが願っています。

建設ギャラリー

工事名／平成13年度天竜川渡ヶ島築堤外1件工事

工事箇所 天竜市渡ヶ島地区

工期 平成14年 3月10日～

平成14年12月25日

発注者 国交省 浜松河川国道事務所

施工者 東松建設(株)

(工事概要)	施工延長	303.80m
(工事・数量)	掘削工	V= 4350m ³
	盛土工	V= 23970m ³
	プレキャスト階段工	A= 55m
	コンクリートブロック工	A= 64m
	プレキャストU字溝100E	143m
	アスファルト舗装工	A= 2130m



コメント

本工事は渡ヶ島地区住民を洪水から守る目的で施工された築堤護岸工事です。大型築堤盛土の為転圧等に十分配慮しながら、地元住民並びに関係機関等の協力により無事工期内に施工を迎えることができました。

かんとくさん



天竜土木事務所
佐久間支所
小澤徳高技師

私が県の職員として採用され、最初に配属されたのが天竜土木事務所です。最初の2年は維持調査課での仕事でしたが、今年度から佐久間支所勤務となりました。私がこの仕事について3年目になりました。この仕事は維持調査課ではほとんど経験のなかった現場を持つての仕事を、わがままにすることが多く、

毎日悪戦苦闘しています。また現場は常に危険が伴ったり、想定していた状況と変化したりと、仕事の難しさを感じています。さて、佐久間の夏と言え、気温が40度近くまで上がる暑さですが、今年も例年のような日本一暑い夏を過ごすことができませんでしたが、その代わりといっただけで、大きな災害を経験しました。国道152号の2度に渡る災害です。延べ一ヶ月近くの通行止めを余儀なくされたこの災害は今年の夏の一番の思い出となりました。これから多くの事を経験し、それを仕事に生かしていきたいと思っています。